

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1196500563		
法人名	株式会社 エイチ・エス・ジー		
事業所名	グループホーム みその		
所在地	埼玉県さいたま市緑区美園6丁目26番3		
自己評価作成日	令和5年5月2日	評価結果市町村受理日	令和5年7月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年6月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

それぞれの入居者様の「今」が、思うとおりに生活できるように支援しています。職員が職員としてではなく「共に生活する者」としての関りを意識し、安心して心地よい生活が営めるように心掛けています。季節のイベント等や様々な新しい取り組みを入居者様と共にチャレンジしています。入居者様も職員日々笑顔で過ごせる環境づくりに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・それぞれの利用者の「今」が、思いどおり、笑顔で楽しく過ごして頂けるよう、ひとり居室で絵筆を振るわれる方や書道を楽しまれる方など、利用者の持てる力とその思いを活かし、笑顔で楽しく過ごして頂けるよう、利用者本位の支援に取り組まれている。
 ・運営推進会議は、コロナ禍で対面での開催が困難となる中、事業所や利用者の状況を書面にまとめ、会議のメンバーに届けて意見等を伺い、会議の代替とされている。
 ・目標達成計画については、前年度は外部評価の実施は緩和されたものの、災害対策として、定期訓練では新人職員を中心に火災発生を想定し、基本訓練に取り組まれるほか、食料・器材などの備蓄品やライフライン寸断時の対策整備などに努められていることから、目標達成への取り組みが伺える。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	グループホームの特性を全職員が理解できるように管理者が定期的にミーティング等で伝え、日常的に各ユニットでリーダーを通して理念に沿ったケアの実践に取り組めるよう職員に周知させている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念のもと、それぞれの利用者の「今」が、思いどおり、笑顔で楽しく過ごして頂けるよう、利用者本位の支援に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所としての地域との付き合いはコロナ禍より希薄である。今後は地域との繋がりが持てるように自治体との繋がりを深めていく方針がある。	地域住民やボランティアとの交流のほか、地域資源の活用など、利用者が地域とつながりながら暮らせるよう基盤づくりに努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の敷地内を利用したケーキ販売会などを通して事業所の取り組みや認知症の相談会等のお知らせを地域に発信している。見学や電話による相談などに応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催は困難であったが各家族と電話やお手紙にて日頃の取り組みの報告を行い、ご意見も頂いている。ご意見を参考にして今後のサービス向上に活かしている。	コロナ禍の中、メンバーが揃っての会議開催に替え、書面にて報告をし、事業所の取り組みについての評価や意見をいただき、事業所運営やサービスの向上に活かすと共に地域に開かれた事業所として質の確保を図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管轄の福祉課や、介護保険課と連携を取り、協力関係をはかっている。	報告・連絡・相談時などでコミュニケーションを図られるほか、感染症対策の情報提供や物品支給など、良好な連携関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い、身体拘束をしないケアの意義を理解し、身体拘束は徹底して行わない体制が整っている。	身体拘束廃止委員会が定期的に行われている。その機会に拘束に関する学びの時間をもち、身体拘束の内容とその弊害を確認、言葉での拘束を含め、行動抑制をしないケアを実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為に、認知症の理解を研修で学び、虐待に発展しないよう職員同士がお互いを見守りあい、声を掛け合うことで虐待防止の徹底した対策を取り、実践し入居者が安心して生活できるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見制度を利用している入居者がいることから、研修実施時の職員の理解度は高いと感じている。制度を通して利用者の日常生活の支援がしっかり取り組めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を確保して頂き、契約書内容を隅々まで説明し、不安や疑問のないように納得されるまで説明を行っている。また、締結後にわいた疑問点にも随時問い合わせを頂けるよう伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見や要望は管理者が受け、その後職員と共有を行い、可能な限り運営に反映させている。	利用者とは日常の関わりの中で話を聴き取り、適宜対応されている。家族とは面会時や定期連絡の際に意見・要望を聞き取られている。その意見や要望は職員間で話し合い、サービスや運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しての職員からの意見は管理者が受け、代表者と共有し話し合い、可能な限りの反映を行っている。	定例会議などで意見・提案を聴き取られるほか、発言しやすい職場環境が作られ、イベント企画や環境整備など、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々のあらゆる状況を代表者と共有し、すべての職員が向上心をもって働ける様に職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を把握、リーダーと共有を行い、それぞれに合ったトレーニングを実践することで確実にスキルが向上する仕組みを整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通して繋がった同業者との交流があり、意見交換ができる機会が持っている。他事業所の取り組みを聞き、当事業所のサービス向上の参考にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に家族や本人に聞き取りを行い、困りごとや生活上の希望の把握を行っている。また新しい場所になじめるように他の入居者やスタッフとの交流が深まるような声掛けを行い、記録におとし、信頼関係の構築を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居からひと月を目安に家族と密な連絡を取り、本人の様子を報告しながら、入居前の様子や家族が苦勞した点などを聞き、家族としての不安や心配の軽減に務め、信頼関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後、どのような生活を望んでいるかを聞き取りし、必要としている支援とサービスの見極めを行い対応している。実施した支援やサービスの結果を家族と共有し継続か変更かを含め話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と共に取り組める趣味や共通の話題などを見つけ職員と入居者が共に生活する者として柔軟な対応を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所としての支援で悩んだ際には家族に相談して過去のケースからヒントを得ている。それにより家族も気兼ねなく意見やアイデアを話してくれることで共に支える関係性が強く築かれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人等の面会なども積極的に受け入れていることを家族に伝え、関係の継続が途切れない様に支援している。	コロナ禍での自粛で限定されるが、知人・親族の面会、家族の協力を得て墓参りや自宅に戻られるなど、これまでの関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の共通の趣味を見つけ一緒に、行楽しめるように支援している。利用者同士が楽しく会話出来るように職員はそのきっかけを作る取り組みをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去後も相談に応じることが可能と伝え、必要に応じて支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりが思いのままに生活できるように声をかけ、聞き取りを行い把握している。家族と相談しあいながら本人の生活のクオリティが上がるように常に検討している。	利用者一人ひとりに寄り添い、声かけを行うことで、思いや意向を把握されている。把握の難しい利用者についても、非言語コミュニケーションを大切に、仕草や表情から汲み取られるほか、家族からの情報提供を頂き、利用者本位に検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前と入居後に家族と本人から生活歴や、生活の習慣を聞き取り、施設での暮らしの中で本人が満足できる環境や習慣を作り出すように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの有する力を把握しており、それぞれに合った過ごし方を行うため支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週月曜日にカンファレンスを行い、介護計画が各々に見合っているか、本人が満足できているかの観察や聞き取りを行い、ケアマネージャーと共に介護計画に反映させている。	利用者・家族から思いや意向を聴きとり、医師・看護師からの指示を含め、全職員の意見やアイデアを活かし、その人らしさを大切に、きめ細かな介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の記録に毎日の様子や発言を記録し、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りその場その場で生まれるニーズに応えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用が出来ていないため、今後の課題となっている。例)図書館利用など		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診診療に加え、必要に応じて外部受診を行っている。また、本人や家族が希望される医療機関への受診も行っている。	利用者や家族の了承を得て、医療機関の変更が行われている。一部診療科目によっては従来からの医療機関での受診もあるが、必要な情報提供が行われ、適切な診療が受けられるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護時に看護師に日常の様子、身体の異変等情報共有を行っている。その際に出た指示を職員間で共有し、次の訪問看護時にフィードバックしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院の連携室や相談員、看護師と定期的に連絡を取り、退院後の受け入れがスムーズに行えるよう病院関係者との協力体制を入院時から取るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に向けた方針を聞き取りし書面を作成している。終末期に突入した際は、あらためて家族の意向を聞き、医療機関と共有し、事業所で行えるケアについて再度説明し重度化や終末期に向けた方針の共有と支援に食い違いないように慎重に進めている。	利用者の症状に合わせ、重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一を図られている。その後も意思確認を進めながら、医師・看護師との連携のもと、支援体制を整え、重度化や看取り支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の初期対応は定期的に申し送りを行い、すべての職員が対応できるようにしている。事故発生時の初期対応も同様に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を行い避難経路等の把握をし、消防署等を含め避難場所となる近隣施設と協力体制を築いている。	定期訓練では、新人職員を中心に火災発生を想定し、初期消火、通報、避難誘導訓練に取り組まれている。また、食料・器材などの備蓄品やライフライン寸断時の対策整備などに努められている。	災害対策は十分取り組まれています。高齢者を預かる事業所として、訓練を重ねて課題を見つけ解決するなど、組織対応力の維持向上に向けた継続的な取り組みに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「認知症のある高齢者」ではなく日頃から「一人の人」として関わるように職員に研修や話し合いを行い、入居者の尊厳を損なわないように努めている。	居室やトイレでの更衣や排泄介助時には必ずドアを閉めること、入浴脱衣時には肌を曝さぬように配慮するなど、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわぬよう気遣いを持つなど、きめ細かな対応が取られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全ての行動において入居者に訊ねてからケアに入るようにしている。それにより自己決定できる環境を作り出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	徹底的に入居者ファーストを実践し、職員の都合でケアを行わないことを意識させている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服が汚れていたら更衣の声掛けを行い、整容を含め、いつでも身なりがキレイでその人らしさを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は持てる力から出来ないことがほとんどであるが、テーブル拭きや下膳などは一緒に行っている。配膳後は温かいうちに召し上がってもらい食事の楽しみを低下させないように努めている。	職員手作りの食事が提供され、テーブル拭きや下げ膳など、出来る利用者に手伝っていただいている。季節のお節料理や生寿司、マクドナルドをテイクアウトするなど、食の楽しみを大切に支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの食事の適量を把握し、栄養のバランスを考え提供している。個々に合わせた食形態にして食べやすく工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は毎回口腔ケアを促し、自立でも不十分な方にはスタッフが介入して口腔内を清潔に保っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて個々の排泄パターンの把握を行い、トイレで排泄ができるように誘導している。	一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行なうほか、利用者個々に事前誘導を心掛けるなど、きめ細かなケアをされ、失敗防止やオムツ類の使用量削減に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて排便状況の把握を行い、便秘予防に水分の促しや体操などで適度な運動の促しを行って便秘予防に取り組んでいる。医師と相談しながら必要に応じた便秘薬の処方も取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日に体調の様子を観察し、あらかじめ入浴予定時間を伝え、本人の希望時間等あれば都度調整をしている。	週2回の入浴を基本とし、利用者の状況や希望に応じて柔軟に対応されている。一部の利用者はシャワー浴となるが、皆さん浴槽にゆっくり浸かり入浴を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や睡眠は個々のペースや希望に応じ、自由に取り入れている。夜間は睡眠を優先したいため就寝時の排泄介助を行い、居室の環境などを整え気持ちよく眠れる用に支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各薬剤の効能や副作用を薬剤師から説明を受け、職員に周知を行い、服薬BOXを利用し久留里の管理を行っている。服薬介助時にはダブルチェックを行っている。それにより誤薬を防ぎ正しく内服出来るように支援を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝・夕の体操は楽しみのひとつとして定着。一定の時間で掃除用具を置き居室やフロアの掃除を行うことで役割への喜びを感じている様子がうかがえる。散歩の習慣で気分転換をはかり、嗜好品も可能な限り制限をつけずに食べている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って散歩を行い、近隣のショッピングモールに買い物やウインドショッピングなどに出かけている。家族との外出、外泊も制限することなく希望に応じている。	現状、外出は自粛してきたが、近くの公園に出かけたり、近くの大型商業施設での買い物を楽しめるほか、家族の協力を得て温泉旅行や自宅に戻りゆっくり過ごされるなど、利用者の希望を大切にしたい支援に取り組まれている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難であっても、家族や本人の要望に沿ってお事業所が小遣いを管理し買い物支援を行っている。毎月の収支は家族に知らせる。お金に関して心配の無いように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望で取り次いでいる。携帯電話を持っている場合も充電が切れないように声をかけている。希望に応じて手紙のポスト投函を手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵を取り替えたり、花を飾ったりして季節を感じてもらえるように工夫を凝らしている。共有スペースを気持ちよく使用できるように常に清潔を心がけている。浴室や各トイレに掃除用具を置き、すぐに掃除できる体制にして不快の無いように徹底している。	リビングには、紫陽花の花飾りや雷神の絵が飾られ、季節感ある装飾となっている。また、中央部にはソファが置かれ、テレビや新聞を見たり、横になるなど、利用者が落ち着いて、ゆっくり過ごせる設えとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人がけのソファを配置し、見守りのもと一人の時間も持てるように工夫している。テレビ近くに複数で座れるソファを配置し他者との交流が楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの生活の能力に併せて、刃物等危険なものを除き、家族や本人と相談し、慣れ親しんだ物や、好きな物を居室に持ち込んでもらい、自分好みの生活が出来るよう支援している。	馴染みの机やソファ、鏡台、好きな絵の絵筆が持ち込まれ、利用者が気分良くゆっくり過ごされるよう工夫をされている。また、定期的なリネン交換と毎日掃除の時間が設けられ、共用スペースを含め清潔維持と衛生管理に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のADLや、残存能力を把握して出来ることをイキイキと行えるように支援している。職員による過剰な介助とならないようにミーティング等で周知。安全に生活できるように行動範囲である廊下などに余計なものを置かないようにしている。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム みその

目標達成計画

作成日: 令和 7年 7月 6日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	新人職員を中心に訓練を行っているが、夜間の訓練を行っておらず実施できるようにする。	夜勤者を中心に夜間の避難訓練を定期的に行う。	夜勤者全員の集合は難しいため、回を分けて夜勤にあたるスタッフ全員の訓練が行えるようにスケジュールを組む。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。